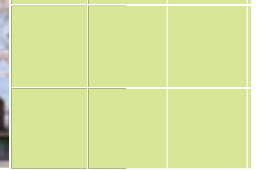
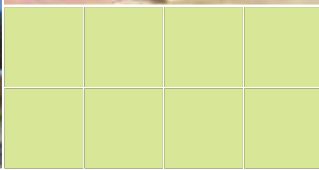
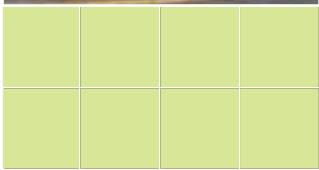
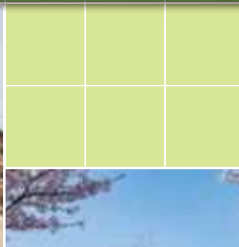
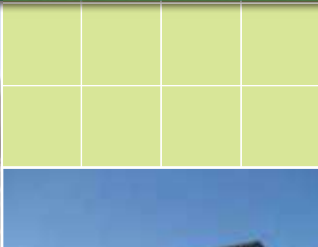




2016 第3回福岡県 木造・木質化建築賞



ご挨拶

森林は、再生可能な資源である木材の生産だけでなく、おいしい水や新鮮な空気の供給、土砂災害の防止など多面的な機能を有し、私たちの安全・安心な暮らしを支えるさまざまな役割を果たしています。

資源として活用するために植えられた本県の人工林は、その7割以上が利用可能な時期を迎えています。県では、この森林資源を有効に活用するため、県有施設の木造・木質化、公共土木工事での県産木材の利用とともに、家具業界と連携して県産木材を使用した家具の展示会を開催し、県民の皆さまに木の良さを実感してもらうための取り組みを進めるなど、県産木材の需要拡大を図っています。

これらの取り組みに加え、民間や市町村施設の木造・木質化を



福岡県知事
小川 洋

推進するため、そのモデルとなる優れた建築物を表彰する「福岡県木造・木質化建築賞」を実施しています。

第3回となる今回も、住宅をはじめ、店舗や公共施設などのさまざまな分野における、木材のぬくもりや木目の美しさを感じさせる多数の応募の中から、選考委員会の厳正な審査を経て、9点の受賞建築物を「福岡県木造・木質化建築賞」に決定しました。いずれも木材の良さや特徴を生かした素晴らしい建築物です。ぜひお近くに行かれた際にはご覧いただきたいと思います。

「福岡県農林水産業・農山漁村振興条例」に基づき、今後も県産木材の需要拡大に向けた取り組みを進めてまいりますので、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

選考委員の皆さまのご尽力に感謝申し上げますとともに、受賞者ならびに応募いただいた皆さまの、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

総評

今回で3回目となる福岡県木造・木質化建築賞の受賞作品が決まりました。これまでと同じように木材の表情や機能を上手に活かした素晴らしい建築物をご紹介します。

昨年は熊本の震災で住宅をはじめとした建築物が広範囲で被害を受け

ました。改めて安心、安全な建築の重要性がクローズアップされました。大きく被害を受けた木造建築物の映像もテレビで流れ、木造建築を心配する声が多く聞かれます。しかし、この被災した地域の近年建設された木造公共建築物の状態を熊本県が調査したところ、構造的に問題となるものがないことが分かりました。「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行されて以降、次第に大型の木造建築物の数が増えているとともに、その木質構造技術の進歩もうかがえます。しかも、そのほとんどは福岡県でも蓄積量が最も多いスギやヒノキでできたものです。スギやヒノキは国産材の中でも軽く、柔らかな木材ですが、長年培われた伝統構法の技術や、先進的接着、接合、防腐処理技術、さらには構造デザインを駆逐することで、非木造にも決して劣ることはない、高い耐久性をもつ建築が可能になります。また、構造だけではなく、上手に木質化された建築物は人の生活や仕事に適した環境を創り出します。木材の表情は私たちの気持ちを落ち着かせ、一つの樹種でもその使い方次第で数えきれない多様なデザインが可能になります。

このように機能性豊かな木材という材料は、実は私たちの身近にたくさんあります。本県でも戦後一斉に植えられた50年生以上の成熟した人工林が増えているのに、あまり使われていない状況なのです。山や森林を健全に保つには、これまであまり使われてこなかったこれら大きな木材の利用促進が求められています。今回の応募作品には、これら大径木をうまく活かした柱や梁材などの利用を数多く見ることができました。まさしく地域資源をうまく利用した優れた建築物であるとともに、地域の森林環境保全、さらに自然



福岡県木造・木質化建築賞
選考委員会
委員長 藤本 登留

との共生につながる建築物です。

本年度は木造の部31点、木質化の部6点、総数37点の建築物を選考しました。

第1次選考は、6名で構成する選考委員会によって平成28年10月17日に書類審査を実施し、協議および投票によって木造の部6点、木質化の部3点、合計9点の建築物を現地審査の対象に選出しました。応募された建築物は、住宅、保育施設、観光物産交流施設、火葬場、教会、福祉施設、学校、図書館、集会場、ゴルフクラブハウスと幅広く、それぞれの施設用途やデザインにマッチした木材の使い方が興味深いものばかりでした。建築物の良さを感じるには、現地に足を運び、立地環境、外観、内観、ディテールを見ることが必要ですが、時間の制約もあり、どうしても現地審査できる建築物は限られてしまいました。

第2次選考となる現地審査は、12月19日、26日の2日間にかけて実施しました。対象の9点の建築物を現地審査したうえで、選考委員会で協議および投票によって木造の部、木質化の部の大賞、優秀賞のほか、5点の奨励賞の受賞建築物を決定しました。木造の部の大賞は昨年度に引き続き都会の中の保育園施設が選ばれました。燃えしろ設計による大径木のスギ丸太柱やヒノキ床板などを採用し、安心感と快適性を兼ね備え、園児も居心地を満喫している建築物です。木質化の部の大賞は大学の図書館が選ばれました。スギを天井のルーバーに使った、デザイン的にも機能的にも洗練された木質化の空間です。屋内の快適性はもちろん、外観も自然と屋内に導かれそうな開放的な図書館です。

これまで受賞を逃した建築物の中には、おそらく受賞建築物に引けを取らない建築物も数多いと思います。選考委員会では、国産材の利用や木造・木質化に波及効果があるモデル的な建築物を今後ともしっかり選考していきたいと思いますので、応募書類を再考して頂くなどして再度応募することもご検討ください。

それでは、今回も受賞建築物として木造・木質化の魅力あふれる9点のモデル的な建築物をここにご紹介いたします。是非ご堪能ください。

福岡県木造・木質化建築賞

【表彰の目的】

県では、充実した森林資源を有効に活用し、森林の世代サイクルの回復を図るため、住宅や公共建築物等における木材の利用や、県有施設の木造・木質化を積極的に推進しています。

そのような中、県産木材の需要拡大の推進をより一層図るため、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し普及啓発することを目的に、本賞を実施しています。

【賞の対象】

県産木材の需要拡大を図るため、公共建築物や店舗・住宅等の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

【賞の部門】

○木造の部(大賞・優秀賞) ○木質化の部(大賞・優秀賞) ○奨励賞

【主な選考基準】

- 国産材を積極的に利用している
- 建築物の木造・木質化に波及効果がある
- 国産材の特徴や良さが活かされている
- 国産材の利用を通じて、豊かな暮らしや社会を実現するもの

【選考委員】

役職名	氏名	職名
委員長	藤本 登留	九州大学大学院農学研究院准教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科教授
委員	工藤 卓	元近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科教授
委員	土師 淳志	(一社)福岡県木材組合連合会 専務理事
委員	長谷川 彰	西日本新聞社編集局生活特報部長
委員	今泉 正彦	福岡県農林水産部林業振興課長

木造の部 大賞

平尾保育園 所在地:福岡市中央区



写真撮影:Blitz Studio 石井紀久

建築主 | 社会福祉法人 浄水会 平尾保育園
設計者 | 有限会社設計機構ワークス 坂口佳明、株式会社木石舎 佐々野尚文
施工者 | 匠建設株式会社
建築物の用途 | 保育園
構造・規模(階数) | 木造・地上2階

設計趣旨 硬質な高層集合住宅と中層の学校施設に囲まれた立地にあるため、園舎は低層の木構造にし、木に触れ、木のあたたかみを感じ、木の優しさを体感でき、子どもたちが安心してできるようにした。外観は板貼と左官の壁で部分的に曲面を使ってやわらかい印象になるように心がけた。準耐火構造だが、ボード被覆で隠すのではなく、燃えしろ計算による現しの構造に加えて、床や壁の仕上げ、窓には木製サッシを使い、保育室中央には丸太柱があり、園児が触れることのできる場所は可能な限り木にしている。また、外構には100本以上の草木を植え、建物の内も外も木にあふれている。





講評

都市の中のマンションなどに囲まれた2階建て木造園舎です。外構には多様な種類の樹木が植栽され、オアシス的に街の中に溶けこんだ保育園になっています。準耐火構造には燃えしろ設計に対応し、大断面で使ったあらわしの丸太や角材の柱は力強さとあたたかみを感じます。床はヒノキなどのフローリング、壁には漆喰が使われ、園庭や2階デッキへ通じる扉は木製サッシが使われています。園児の快適で安全な環境を、ヒトとの相性が良い天然材料である木材を上手に使いこなしています。2階の講堂は木造の小屋組みをそのまま見せ、園児たちにちょうど良い開放感をもつ場所になっています。大断面の丸太や角材が採れる大径木は資源的には豊富に育っているものですが、一般的に流通しておらず、選木、加工、運搬に時間や労力や特殊な加工技術が必要です。特に品質確保に欠かせない乾燥には長い期間が必要になります。本建築物は主要な構造材の含水率やヤング率の計測チェック欠点の目視検査を実施するなど、材料調達に細心の注意が払われています。



木質化の部 大賞

福岡女子大学 図書館棟

所在地:福岡市東区



写真撮影:SS九州 上田 新一郎,SS東京 走出 直道

建築主 | 福岡県
設計者 | 久米設計・NKSアーキテクト・大設計 設計業務共同企業体
施工者 | 西松・上村・入江特定建設工事共同体
建築物の用途 | 大学 図書館
構造・規模(階数) | 鉄骨造・地上2階

設計趣旨 県産木材の杉ルーバーによる有機的な天井や、木製の書架・テーブル家具などを設置し、木質素材に囲まれたあたたかみのある空間にした。1階の学習空間と2階の図書館の一体空間を特徴づけるために、杉ルーバーで覆われた波打つような天井をつくり、2層吹き抜けの大屋根でやわらかく包み込みながらも、存在感を示すものとした。杉ルーバーを通して、トップライトやハイサイドライトから光が漏れることで、木漏れ日の落ちる森の中に居るような空間を作り出した。木のやわらかな表情により、コミュニティを誘発する空間になっている。





講評

語学学習室を併設した2階建ての木質化された大学図書館です。図書館とはいてもアクティブラーニングを本大学は推奨しており、読書だけではなく、ガラスで仕切られた多目的交流エリアも配置されています。外からもガラス越しに中の様子がよく見え、多くの学生たちや地域の人が入館したくなる開放的で明るい図書館です。この2層吹抜けの天井一面にスギ材のルーバーが設置されています。大空間を支える円柱鋼の柱はランダムに配置され、梁は荷重に応じて高さの異なる鉄骨の格子で屋根構造ができています。高さが違うこの梁に沿い木材のルーバーも傾斜を持ったまま設置され、全体的に軽く波打つモダンでしかも上品な雰囲気を創り出しています。天井から自然採光も取り入れ、ルーバー越しに木漏れ日が差し込みます。屋内ルーバーは不燃処理されて落ち着いたブラウンに仕上がっています。幅30×高さ75mmの断面を持つルーバー部材は、すべて取り外しができるボルト締めになっており、天井内の機器メンテナンスにも配慮されています。



木造の部 優秀賞

てい てい しゃ こう こう しゃ
亭亭舎・皎皎舎

所在地:福岡市西区



建築主 | 国立大学法人 九州大学 総長 久保千春
設計者 | 有限会社阪根宏彦計画設計事務所 代表取締役 阪根宏彦
施工者 | 福匠工舎 福田健一、有限会社真和創巧 山下和博
建築物の用途 | 大学 福利厚生施設
構造・規模(階数) | 木造・地上1階

©阪根宏彦計画設計事務所+豊田哲也

設計趣旨

未来の九州大学の施設として、環境に配慮した純木造建築が求められた。九州大学演習林の樹齢約100年の桧を伐採から製材加工まで品質管理を行い、八角柱や構造材に使用している。敷地がキャンパスの豊かな緑地に面する傾斜地に建つことから、風や光をたっぷり取り込む空間としている。換気を促すハイサイドライトを持つ断面構成とし、自然エネルギーの無理のない利用を行っている。建設中は、学内の特別授業にも組み込まれ、教育の場としての展開の可能性を生み出すとともに、失われた旧施設の空間を継承しながらも、伊都キャンパスに新たなコミュニティスペースを創造した。

講評

大学の学生集会場と購買施設としてつくられた平屋の木造建築物です。高層の鉄筋コンクリート造の校舎が並ぶキャンパス内の斜面に建設され、遠くからでも無垢のスギ、ヒノキの構造材や外壁がみえる、周りとは風違った落ち着いた木造施設です。亭亭舎は掘ごたつを備えた畳間と板間の広い空間をもつ構造になっています。屋根部分の骨組みも見せながら、縁側の一面全体にわたるガラス戸も併せて開放感十分です。斜面を活かした採光や換気も上手に考えられています。象徴的な大きな柱は大学演習林の高齢ヒノキ材が使われ、大梁以外はほとんど国産スギ、ヒノキが使用され、魅力的なコミュニティスペースになっています。構造的には地域の技術者で施工、メンテナンスができるように在来軸組工法が採用されています。建設時は大学の特別授業として実習に活用され、次世代の建築教育にも活用されました。



木質化の部 優秀賞

みやこ伊良原学園

所在地:京都郡みやこ町



建築主 | みやこ町
設計者 | 安藤忠雄建築研究所 安藤忠雄
施工者 | 松尾建設株式会社 北九州支店 支店長 源泰宏
建築物の用途 | 学校
構造・規模(階数) | 校舎棟:鉄骨造・地上2階
屋内運動場棟:木造+鉄骨造・地上1階

写真撮影:小川 重雄



設計趣旨

周辺の山深い景観と調和し、自然のぬくもりを感じる生活の場を演出する素材として地元産の木材を使用した。大量の地元産の木材を使用するにあたり、設計の途中段階から材料の調達を開始した。建物は楕円状の中庭をもつ54m×36mのシンプルな矩型平面で、グラウンドに面する南側を2層の教室ゾーン、北側を円弧状の屋根を持つ大断面集成材を用いた体育館としている。仕上げには内外ともに木材を用い、山の中の学校として周囲の自然との調和を図った。準耐火建築物としての性能を確保しながらも、木造建築の軽快なプロポーションを実現するために、施工精度の限界に挑戦した。

講評

ダムに水没する集落から移転新築された小中一貫の2階建て校舎です。児童数も限られ、小中各学年一室ずつの少人数型教室や、特別教室、職員室、体育館などが、楕円の中庭の吹き抜けのオープンスペースを囲むように配置されています。エントランスからオープンスペースにかけて、いろんな学年や教員が交わり、話がはずむ活動スペースになっています。地域の方との交流スペースとしても魅力的な空間です。フローリングや柱や壁の木質化は、校舎デザインにマッチした落ち着いた雰囲気を効果的に醸し出しています。内壁、外壁の杉板は地元産を使用し、親しみある町民のシンボルの建築物になっています。体育館を併設した外観はユニークで、深い庇をもつバルコニーは長い木質の柱をV字に配置して支えられています。特徴的でありながら背景となる山林に調和した建築物です。



奨励賞

(順不同)



八女市矢部地区観光物産交流施設「杣のさと」

所在地：八女市

建築主 | 八女市

設計者 | 有限会社井上建築事務所 代表取締役 井上文雄

施工者 | 大坪・中嶋特定建設工事共同企業体

建築物の用途 | 特産物売場、レストラン

構造・規模(階数) | 木造・地上1階

設計趣旨

林業が盛んな地元の魅力を活かすため、木造建築を選択した。また、地元で豊富にある杉が持つ柔らかくて品のある質感で観光客を迎えたいと思い、木製ルーバーのファサードとした。木材の調達には、地元木材共販所からの仕入れを行い、低分子フェノール系保存処理を行うため、処理工場へ運搬し、再度現場に搬入することで、地元産材利用を徹底した。また、地元職人による施工を前提とした計画として、流通材を用いた在来軸組工法とした。

うみてらす豊前(豊前市海業支援施設)

所在地：豊前市

建築主 | 豊前市

設計者 | 株式会社綜企画設計 福岡支店
支店長 古元俊治

施工者 | ミヤフサ建設株式会社
代表取締役 宮房幸司

建築物の用途 | 水産物直売所、水産物加工所、食堂

構造・規模(階数) | 木造・地上2階

設計趣旨

海辺に建つ施設だが、市の約6割を森林が占めていることもあり、森林環境の保全と整備の推進、地元産材のPR、木材による快適な空間を提供するため、地元産材を積極的に利用した。設計段階で林務担当と協議を行い、市有林の間伐等で発生した木材の確保を依頼した。また、施設内のテーブルやレジ台などは、地元の森林組合に製作を依頼し、施設全体で木の温もりを感じられる施設にした。





写真撮影:Blitz Studio 石井紀久

おうぶかん

桜舞館小学校 所在地:みやま市

建築主 | みやま市
 設計者 | 株式会社マトリックス 代表取締役 森賢一
 施工者 | 株式会社柿原組 代表取締役 吉永泰憲
 株式会社河建 代表取締役 河野秀敏
 株式会社金子技建 代表取締役社長 金子和英
 遠藤工務所 代表 遠藤若市

建築物の用途 | 小学校
 構造・規模(階数) | 教室棟:鉄筋コンクリート造・地上3階
 管理棟:鉄筋コンクリート造・地上3階
 多目的ホール棟:鉄筋コンクリート+木造・地上2階
 体育館棟:鉄骨造+鉄筋コンクリート造・地上1階 外

設計趣旨

統合する小学校の地域と住民、そして子ども達にとって永遠の心のランドマークたり得ることを念頭にデザインをした。多目的ホールは、平行弦を直交させる立体トラスで無柱の大空間にして木構造の天井を見せた。体育館の屋根は、地名と旧校歌に残る言い伝えを形にした。子ども達が直接手を触れる腰壁に木材を使い、視線の先のどこかに木材が見えるよう配慮しており、成育期の精神情緒育成の糧になることを期待している。

かすやこども館 所在地:糟屋郡粕屋町

建築主 | 粕屋町
 設計者 | 株式会社環境デザイン機構 大島栄三
 施工者 | 因建設株式会社 代表取締役 因善一
 株式会社荻原工務店 代表取締役 荻原千代美

建築物の用途 | 児童福祉施設
 構造・規模(階数) | 木造・地上2階

設計趣旨

隣接する駕与丁公園の豊かな自然の風景に溶け込むように、山の稜線を意識した勾配屋根が特徴の、シンプルで連続性のあるデザインとした。また、子ども達が親しみやすい、やわらかな印象となるように、外壁に県産木材の木ルーバーを利用し、子ども達の活動空間をやわらかく包むように仕上げた。建具の枠や柱、梁、床など様々なところに県産、または国産の木材を使用した。



写真撮影:イクマ サトシ

岡垣町観光ステーション北斗七星

所在地:遠賀郡岡垣町

建築主 | 岡垣町
 設計者 | 株式会社柴田建築設計事務所
 代表取締役 柴田成文
 施工者 | 有限会社緒方建設 代表取締役 緒方重徳
 建築物の用途 | 観光拠点施設
 構造・規模(階数) | 木造・地上1階

設計趣旨

響灘と玄界国定公園に接しているため、周囲の景観との調和を考慮し、木の香りが漂い、温もりや安らぎを醸し出す木造建築とした。また、塩害対策からも木材が有効なため内外装材を板張りとした。屋根にも金属葺きの上に日よけを兼ね、全面木材ルーバーを設置した。各室内の壁板材となる杉・檜の木目および色合わせ等に留意した。





2016 第3回福岡県木造・木質化建築賞

福岡県農林水産部林業振興課木材流通係

TEL092-643-3536 FAX092-643-3541

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/mokuzou3kettei.html>

この冊子の用紙は、福岡県産の間伐材を使用しています。